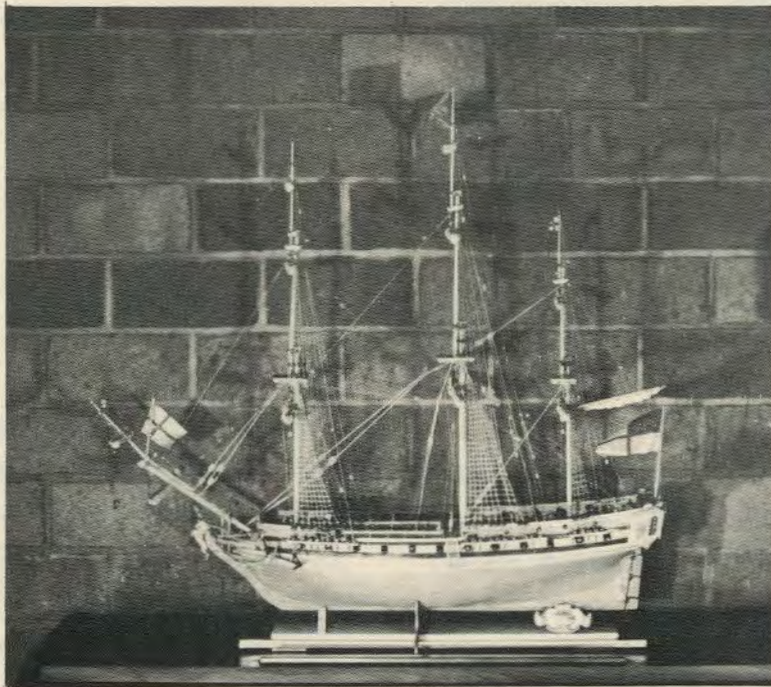


光市医師会報

昭和56年5月発行

No. 104



帆船

亀田 仡先生

光市医師会

医師会月間行事

◎臨時理事会

4月7日(火) 7・30PM

光市医師会館

○報告事項

1. 光輝病院に関する問題

イ、4月17日開院落成式予定

ロ、対策協議会 4月4日(土)

周南地区、岩国地区、地元医師会の会長・副会長・理事と県医師会理事が出席

従業員、看護婦の引抜きについて

巨大資本 80億

事務長は住友信託元支店長

看護学院を併設する

光輝病院社宅を光に建設の予定

2. 決算収支報告

○協議事項

1. 昭和55年度才入才出の検討
2. 昭和56年度予算の検討
3. 医師会事務職員の労務管理と事務の合理化について
4. 55年度事業報告の検討
5. 56年度事業計画の方針立案について
会長立案の昭和56年度光市医師会事業運営の基調についての説明と討議
6. 定款改正
改正点が多いので、事務所所在地、委任状等も含めて検討は時間をおきたい。
7. 総会開催の予定

4月25日(土) 3・PM松原屋と
決定

8時半頃 協議進行中に県医師会より大野会長に電話で、斉藤県医師会会長急死の知らせがありました。理事一同心から御冥福をお祈りしました。

◎定例理事会

4月14日(火) 7・30PM

光市医師会館

○報告事項

1. 育藤県医師会長の県医師会葬の件について
2. 総会準備の進行状況について

○協議事項

1. 昭和55年度決算について
2. 基金へ繰入額の決定
3. 昭和56年度予算案について

◎昭和56年度

光市医師会定時総会

4月25日(土) 午後3時より昭和56年度光市医師会定時総会が松原屋において開催された。出席者28名。

大野医師会長挨拶の後、高島潔議長、議事録署名委員を指名後、総会提出の5議案が審議され、午後4時30分無事終了す。
議事

- (1) 昭和55年度事業報告(承認事項)
大野会長
- (2) 昭和55年度会計報告
竹中昭二先生
- (3) 昭和56年度事業計画案(決議事項)
大野会長
- (4) 昭和56年度収支予算案(決議事項)
竹中昭二先生

納税組合収支報告 渡辺貞雄先生

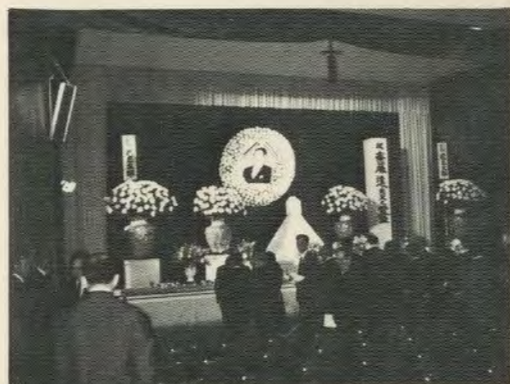
(5) 総会決議権限の委任について

(決議事項)

続いて午後5時より同じく松原屋広間において懇親会を開いた。来賓には松岡光市長、賀根教育長、高橋市民部長、田越福祉事務所長、菴永環境衛生課長、中野警察署長、梅本消防長、菅原徳山社会保険事務所長に御参加いただき、特に河内山清先生、亀田先生の余興もあって賑やかなごやかな懇親会であった。

山口県医師会葬

4月18日(土)午後2時より県医師会館において、山口県医師会長 故斉藤進先生の県医師会葬が行なわれました。光医師会より大野会長、福本副会長が御参列下さいました。



X線映画撮影法による健常人の頸椎運動について

光中央病院 整形外科 河内山 正

頸椎の動作学的研究は臨床的にX線撮影法等により観察されているが、自然の頸椎運動をとらえる方法としてCineradiography (X線映画撮影法)が優れている。

Fielding (1957)が最初にこの方法を用いて正常の頸椎運動を報告しているが、いまだ数少ない。そこでCineradiographyを用いて頸椎運動を動的に観察しようと考えて、まず健常人について調査することとした。

対象は10才代から60才代までの各年代につき5例とし、合計30例である。撮影方法は16mmシネカメラを装着した東芝製KXO-1000型X線発生装置を使用し、撮影条件はX線管電圧75~85Kvp、X線管電流2~3mAとし、銅板とアルミ板

フィルター使用して、距離85cmとした。撮影時、胸腰椎の動揺を防ぐ為胸椎固定装置を使用した。頸椎運動を自然に行わせめるように1回、約10秒間で頸椎を屈伸できるような回数練習させた後に撮影することとした。

観察方法はベルハウエル16mm解折装置を使用し、映画として詳細に観察すると共に頸椎側面像にて最大前屈位から最大後屈位までの運動時において下位椎体に対する上位椎体の傾斜角度を指標として頸椎全体の可動性および前・後屈に際して各椎体間の傾斜角度の変動並びに「ずれ」について測定した。〔図-I〕

この時頸椎中間位を基準として前・後屈

角10°間隔のものを普通写真に引き伸ばして計測した。

結果、健常例において頸椎の前屈及び後屈を合わせた可動性は年令と共に減少し、特に40才代から50才代より大幅に減少している。〔図-Ⅱ〕

各椎体間では前・後屈を合わせるとC₅₋₆の傾斜角度が最も大きくC₄₋₅、C₅₋₆がこれにつぐ。なかでも前屈位ではC₄₋₅、C₃₋₄が、後屈位ではC₅₋₆、C₆₋₇が他の部位に比較してよく動いている。〔図-Ⅲ〕

前・後屈に際してC₂~C₇の各椎体間の傾斜角度の変動を全体として、また局所としての同一レベルでみると、年令により多少の変動はあるがほとんど近似した角度を示し、前・後屈運動に際して各椎体間は円滑に運動していることがうかがわれる。

〔図-4〕

又「ずれ」に関しては頸椎前・後屈運動に際して椎体間のずれはいずれの症例においても若干の程度はみられるが、決して程度は強いものではない。各椎体間のなかではC₄₋₅、C₃₋₄、C₅₋₆が他の部位と比較して多少強くみられる。「ずれ」の程度を頸椎の前・後屈運動でみると、最大前屈位で強くあらわれ、前屈から後屈位に運動が開始されるとまもなく除々にずれの程度が弱くなり、中間位付近ではほとんどみられなくなる。更に運動が続いて後屈位に至れば、「ずれ」が再び除々に起り出し、その程度を増しながら、最大後屈位に至って最大前屈位と同程度のずれになる。このように健常例においては頸椎前・後屈運動に

伴う椎体の「ずれ」は個人差により多少の違いはあるけれども各椎体間の「ずれ」はそれなりに規則正しく生じており、年令と共に「ずれ」の発規率も減少している。

〔図- 〕

結語

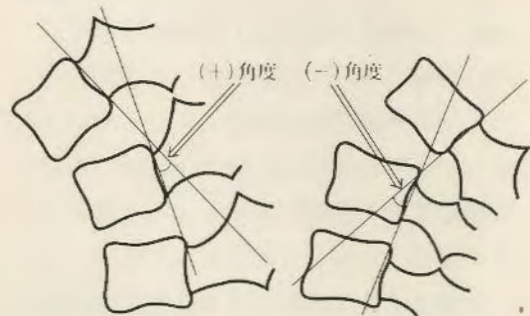
1) Cineradiography (X線映画撮影法)を用いて、健常人の頸椎運動を動態的に観察した。

2) 頸椎の前・後屈の可動域は年令と共に減少している。各椎体間ではC₅₋₆の可動域がもっとも大きく、C₅₋₆、C₄₋₅がこれにつぐ。

3) 各椎間の運動は健常人ではスムーズに、円滑に行なわれている。

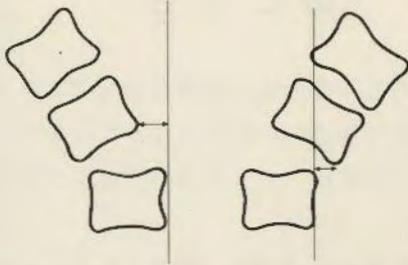
4) 「ずれ」については程度は強くないが、頸椎の最大前・後屈位では若干の「ずれ」を認めるが、運動域内では規則正しくなっている。

5) 健常人の頸椎運動では各椎間の運動は円滑に行なわれている。



下位椎体に対して1椎体上位の椎体が前方に傾斜している場合を(+)の角度で表わし、後方に傾斜しているものを(-)の角度で表わす。

図2 計測方法
傾斜角度



下位椎体に対して1椎体上位の椎体が前方にあるいは後方に「ずれ」ているものを上記方法により計測した。

図3 計測方法
「ずれ」

(健常例)

年代別	傾斜角度			
	前屈	中間位	後屈	
	100°	50°	0°	-50° -100°
10才代	[Hatched bar from 100° to 50°]			
20才代	[Hatched bar from 100° to 50°]			
30才代	[Hatched bar from 100° to 50°]			
40才代	[Hatched bar from 100° to 50°]			
50才代	[Hatched bar from 100° to 50°]			
60才代	[Hatched bar from 100° to 50°]			

図5 頸椎全体の可動性

(健常例平均値)

椎間	傾斜角度		
	前屈位	中間位	後屈位
	50°	0°	-50°
C ₂₋₃	[Hatched bar from 50° to 0°]		
C ₃₋₄	[Hatched bar from 50° to 0°]		
C ₄₋₅	[Hatched bar from 50° to 0°]		
C ₅₋₆	[Hatched bar from 50° to 0°]		
C ₆₋₇	[Hatched bar from 50° to 0°]		

図7 各椎間可動域

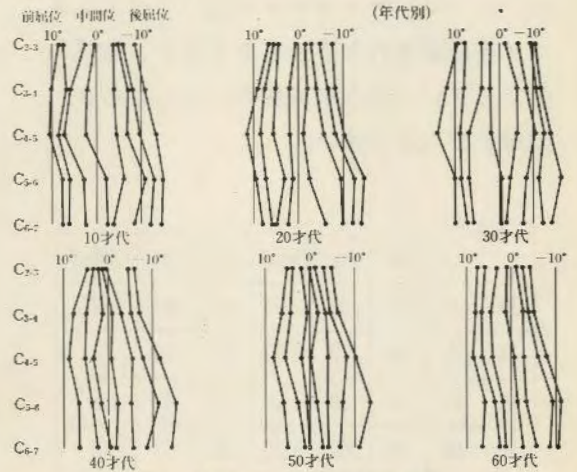
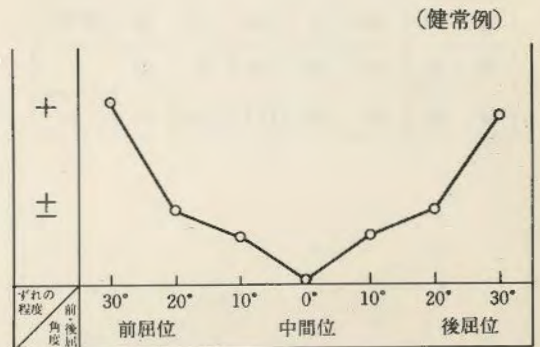


図6 各椎体間の傾斜角度 [健常例]



中間位では「ずれ」の程度が軽く、前屈・後屈の角度が増加するにつれ「ずれ」の程度は増加する。

図9 椎体「ずれ」の推移

緑友会コンペ

久かた振りの穏やかな日曜日 4月12日
 日周南カントリークラブで開催、ゴルフにはベストコンディション従ってベストスコアを記録された方々もあるけど、強風の中でのプレーの方が成績のいい人もある。記録をごらん下さい。

	Out	in	Gross	Hd	Net	Order
森 本	51	47	98	18	80	7
富 恵	50	52	102	27	75	4
高 畠	56	56	112	30	82	8
高 橋	54	52	106	28	78	5
大 野	49	46	95	20	75	3
諏 訪	52	53	105	26	79	6
福 本	73	74	147	36	111	B M
亀 田	52	55	107	22	85	B B
守 田	42	42	84	16	68	優勝
竹 中	48	46	94	25	69	2
伊 藤	55	56	111	28	83	9

あとがき

昭和56年度の定時総会も盛況裡に終わって、光市医師会の一年の出発となりました。会長の方針に従って、新しい活動をお願いします。

表紙の帆船の模型は、亀田先生から1月に写真いただいていたものですから、製作は昨年で、約8ヶ月かけて作られたそうです。金箔に白いきれの帆、沢山のロープ、大した職人芸だと感心します。

広報委員ではありますが、河内山正先生に初めて会報に学問的な論文をいただきました。

ありがとうございました。



発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	大野宗二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社